

令和3年度 学校評価報告書

学校番号(小15) 長崎市立(南小)学校

1 教育目標

自ら学び鍛え、励まし合う、心豊かな児童・生徒の育成

2 学校経営方針

「南小だからこそできることの徹底」

- 小規模校だからこそできる教育の推進
- 出会いや体験の重視

3 重点目標

- 小規模校だからこそできる教育の推進
 - ・学力カルテの作成と有効利用
 - ・確実な学力向上 (AIドリルの活用、多様なPC利用、複式指導の充実)
- 出会いや体験の重視
 - ・他校との交流
 - ・他との交流や出会いの場の提供
 - ・自己表現の場の設定と工夫

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	100	100	100	平均値からすると、児童・教職員のポイントに比べて保護者のポイントは高くない。小規模校のために、周りを意識して、我慢をしている子どもがいるかもしれないので、より細かい観察・支援を行っていく。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	100	100	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している	100	100	100	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している	100	100	100	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	100	100	100	職員にはとてもよい挨拶ができる。しかし、来校者への挨拶があまりうまくできていない。どの子ども気持ちの良い挨拶が誰にでもどこでもできるように継続した指導を行う。 子どもたちは、お互いが支えあって生活している。職員も夏休みの人権教育の研修会を企画して、一人一人を大切にしたい指導に努めている。
		挨拶をよくしている	100	100	100	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	100	100	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	100	100	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	100	100	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	100	100	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	100	100	100	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	100	100	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	100	100	100	家庭学習の習慣については、教師が出す漢字や計算・音読などはほぼ行えるが、自分で考えて学習する自主学習への取組がやや弱い。自主学習の習慣化に向けた取り組みを行う。 自分たちの町が大好きな子どもたちが多い。今後もふるさと教育に力を入れる。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	100	100	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	100	100	100	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	100	100	100	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		100	100	100		

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	100	100	100	年間を通して、毎週1回、養護教諭からの講話等により、子どもたちの健康への意識が非常に高まった。昼休み、教職員が子どもと共に体を動かして遊ぶ姿が毎日見られた。このことは体力向上にもつながっている。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	100	100	100	
		体力向上に努めている	100	100	100	
	食育	食に関する教育活動を行っている	100	100	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	100	100	100	安全点検を密に行い危険個所が判明すると迅速に事務職員及び庁務員が対応した。学校だよりや学級だより、HP更新など、常に新しい情報を保護者や外部に発信した。また、コロナ禍ではあったが、運動会には、多くの地域の方に参観していただいた。 安全推進委員会や服務規律委員会を定期的に開催し、働きやすい職場づくりに努めた。日頃から職員同士の会話が飛び交い、協働して教育活動に取り組む姿が見られる。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	90	100	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている		100	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	100	100	100	
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

児童の情報提供の項目のみ、若干評価が低いだけで、それ以外の項目はすべて、児童・保護者の方から肯定的な評価を得ることができた。これは、子どもが主役の学校経営方針のもと、全職員で取り組んできた成果だと考える。特に、「学校は明るく楽しい雰囲気である」という項目では、ほとんどの児童が「4」と高評価をしていた。授業中の個に応じた指導や職員と共に遊ぶ昼休みなどを通して、児童と教職員の信頼関係が深まったからだと思う。ただ、少人数のため、本音を言いにくいところもあると考えられるので、高評価に甘んじることなく、児童・保護者とさらに信頼関係を高める努力をしていかなければならない。

家庭学習の習慣化にも取り組んだが、保護者の評価はあまり上がらなかった。子どもたちへの意欲を高める工夫を今後も継続して行うようにする。また、次年度は本格的にICTを活用した家庭学習の実践を行い、児童が自主的に学習に取り組めるようにしていきたい。

6 学校関係者評価

・子どもはもちろん、保護者からも評価が高い結果で、先生方がよくやっているという好評をいただいた。授業も参観していただき、ICT機器を活用した授業を見られ、現在学校で行われている教育を知ることができてよかったという感想をいただいた。しかし、少人数のため寂しさがあるということであった。人格のよりよい形成のためにも、交流の場の設定をお願いしたいというご意見をいただいた。

・地域での子どもたちの様子では、子どもが少なくなりあまり会う機会がなくなってしまったが、会うと気持ちのよい挨拶がしっかりとできているということであった。

・小学校のことについて、あまり関心がない地域の方もおられるということであった。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

・家庭学習の定着を図る。次年度は、PCの持ち帰りもあるので、課題に対してどのように取り組むのか、指導が必要になる。合わせて、メディアの利用に関する約束について、家庭と連携していく必要がある。

・隣接校や地域の方、また外部の方などとの交流の機会をより一層増やす。

・地域学習の充実を図り、ふるさと教育の充実を図る。

・情報発信に努め、学校の様子を広め、感心をもってもらえるようにする。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。